



1880

ユーイングの円盤式地震計
1880年

科博NEWS展示

『地震計の発達』

—アナログからデジタルへ—

1960



アナログ式強震計「SMA-1A」
1960年代後半
(Strong Motion Accelerograph)

1970



デジタル式強震計「DSA-1」
1970年代前半
(Digital Strong motion Accelerograph)

令和元年

9/3(火) → 2/29(日)

休館日:毎週月曜日(月曜日が祝・休日の場合は火曜日)

9月16日及び23日は開館

国立科学博物館 [東京・上野公園]

日本館1F南翼「地を知る」内

開館時間

午前9時～午後5時

金・土曜日は午後8時まで

※入館は各閉館時刻の30分前まで

入場料

常設展示入場料のみでご覧いただけます。

常設展入場料

一般・大学生 620円(団体500円)

高校生以下および65歳以上無料

※団体は20名以上

〈主催〉国立科学博物館

〈協力〉応用地震計測(株)



国立科学博物館には、明治から大正、昭和初期に活躍した多くのアナログ式地震計が展示されています。これらの後の時代の地震計である、世界で最も普及した軽量小型アナログ式強震計「SMA-1A」、地震計の歴史を語る上で重要な世界初のデジタル式強震計「DSA-1」（ともにアメリカ、Kinematics社製）の寄贈を受けました。本展では、地震計の発達の流れを示すこれらの地震計を展示します。

アナログ式強震計「SMA-1A」

1960年代後半

(Strong Motion Accelerograph)

「SMA-1」は、地震工学研究において軽量小型化した第二世代の強震計として、1960年代後半にアメリカのKinematics社で開発された地震計です。世界各地で使われた最も有名なアナログ式強震計で、約8000台が販売されましたが、アメリカ国内よりも海外に多く展開されました。日本でも活躍し、光源の動きを感光フィルムに記録する光学式の地震計です。



デジタル式強震計「DSA-1」

1970年代前半

(Digital Strong motion Accelerograph)

「DSA-1」は、アメリカのKinematics社で1970年代前半に開発された、世界初のデジタル式強震計です。販売台数は約500台強とSMA-1に比べると少ないですが、地震計業界や強震観測分野でのエポックメイキング的な強震計です。データはカセットテープに記録していました。



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

開館時間

9:00~17:00
金・土曜日9:00~20:00
※入館は各閉館時刻の30分前まで

休館日

毎週月曜日（月曜日が祝・休日の場合は火曜日）
9月16日及び23日は開館

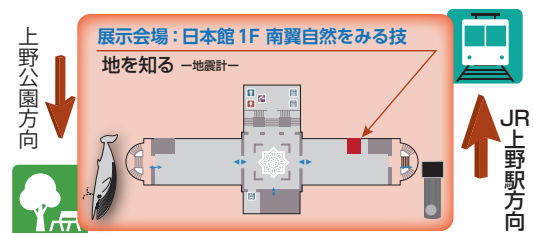
お問合せ

ハローダイヤル 03-5777-8600

<http://www.kahaku.go.jp>

住所：〒110-8718東京都台東区上野公園7-20

●展示会場のご案内●



交通のご案内

- JR「上野駅」公園口から徒歩5分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」から徒歩10分
- 京成電鉄「上野駅」から徒歩10分

(当館には駐車場はありませんので、車での来館はご遠慮ください。)